

音楽科学習指導案

作成者：野上華子

1. 指導内容：〔共通事項〕 動機の変化
〔指導事項〕 B鑑賞（1）— ア（ア）・イ（ア）
2. 単元名： 動機の変化から作曲者の意図を読み取ろう
3. 対象学年： 中学2年生
4. 教材： ベートーヴェン 交響曲第5番 ハ短調 第1楽章
5. 教材と単元について

18世紀は、産業革命はじめ、大きく時代が動いた時であった。ベートーヴェンはそのような時代の中で、苦悩に満ちた人生を力強く生き抜いた作曲家である。彼の生涯で、難聴は最も苦しんだ事実の一つであるとともに、交響曲第5番と大きく関わっている。

交響曲第5番ハ短調は、たった2小節の動機をもとに全体が構成されている。第1楽章の冒頭では、主に弦楽器のユニゾンで突然にあらわれることで、衝撃的に提示されている。その後、動機はさまざまに変化をさせながら休む間もなく登場し、第1主題は動機のみで構成されている。それに対して第2主題は長調に転調し、優美でなめらかな旋律が新しく登場する。しかし、その裏側でも動機のリズムは執拗に演奏されており、動機の刻みが途切れることはない。「運命はこのように扉をたたく」という作曲者の言葉は、この動機の現れ方に大きく関わっており、そこから作曲者の状況や心情の変化や揺れを想像することもできる。作曲者の背景と音楽が深く結びついた楽曲である。

本単元では、動機の変化を中心に学習をすすめる。動機が「扉をたたく」リズムであることを授業の冒頭で提示することで、楽曲の動機のリズムを身近に感じさせ、最後までそのことを意識しながら鑑賞させることを意図した。経験のステップでは、冒頭21小節までの弦楽器パートをリズム譜にしたものを用いて、4人グループで簡単なアンサンブルをさせる。4人で実際に合わせていくことで、リズムの重なり方や登場の仕方に体験によって気づかせることがねらいである。その後、第1主題を鑑賞し、様々な動機の変化を見つけていく。分析でのステップでは、第1主題と比較しながら第2主題の分析をおこない、再経験のステップで、作曲者の動機に対する言葉を伝えようとして提示部を鑑賞させる。経験から再経験で徐々に作曲者の言葉と楽曲を結び付けていき、評価のステップでは、作曲者が楽曲に込めた思いを考えながら第1楽章全体を鑑賞し、動機と関わらせながら批評文をかかせる。

6. 指導計画：（全2時）

ステップ	学 習 活 動	時数
経 験	冒頭の動機を理解し、第1主題の動機の変化に気づく。	第1時
分 析	第1主題と第2主題における、動機のさまざまな変化や登場の仕方について知覚・感受する	第2時
再経験	作曲の背景を理解したうえで、提示部を鑑賞する。	
評 価	第1楽章全体を通して、作曲者が表現しようとしたことについて考え、動機にかかわらせた批評文を書く	

7. 単元目標・評価規準：

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。	・リズム、テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲に対する評価と根拠について考え、良さや美しさを味わって聴いている。	・動機の変化や楽曲、作曲者の生涯に関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

7. 展開：

活動のねらい	生徒の活動	指導者の活動	評価
経 験	冒頭の動機を理解し、第1主題の動機の変化に気づく。		
◆動機のリズムについて理解する	<p>1, 扉をたたくりズムをさぐる。</p> <p>2, 楽曲の冒頭2小節をきいて、イメージしたことについて考える。</p> <p>3, 冒頭2小節の動機について、音楽の特徴をとらえる。</p>	<p>○「みなさんは、扉をたたくとき、どのようにたたきますか」</p> <p>○「このドアをたたくりズムをもとにしてつくられた曲があります。その冒頭を聴いてみましょう。」</p> <p>・どのように扉をたたいているかイメージしたことをきく。</p> <p>・作曲者と曲名を伝える。</p> <p>・生徒の意見をもとに、リズム、音の上がり方をおさえた上で、音色や強弱、音色も含めて確認する。</p> <p>○「これからこのベートーヴェンが作曲した交響曲第5番《運命》の音楽の仕組みをさぐっていきましょう。」</p>	
◆動機の現れ方と動機の変化を理解する	<p>4, 冒頭21小節までを、グループでリズムのみのアンサンブルをする。</p> <p>5, 合わせていく中で、気づいたことを共有する</p>	<p>○「この曲は、この動機がたくさん使われており、この動機をもとにして成り立っています。ではまず、この冒頭部分で使われているリズムを、簡単な楽譜にしたものを配ります。4人グループで合わせてみましょう。」</p> <p>・音源に合わせて、入るタイミングをつかませる。</p> <p>・難しかったなど感想の場合は、なぜそう感じたのか、どこが合わせづらかったのかなどをたずねる。</p>	

	6, 21小節までで、動機がどのように変化されているかを、音源から聴き取る。	○「この冒頭の動機、ダダダダーンの後にたくさん動機が出てきました。最初の動機と比べてどのように変化しているか、変化の仕方を見つけてみましょう。」 ・出だしの音の高さの変化 ・音の下がり方の変化 ・使われている楽器の変化 ・現れ方の変化	知 〈ワークシート〉
	5, 変化したことで、冒頭の動機とどのように雰囲気が変わったか考える。		
分析	第1主題と第2主題における、動機のさまざまな変化や登場の仕方について知覚・感受する		
◆動機の使われ方と、曲想の変化について知覚・感受する	6, 第2主題を聴き、第1主題との違いを感じ取る。 7, 第2主題の動機の現れ方や音楽の特徴について分析する。	・雰囲気をつかませ、なぜそのように感じとったのか、音楽の特徴についての発問返しを意識する。 ・動機に注目して考えさせる。 ・第1主題との違いを確認しながら進める。	知 〈ワークシート〉
再経験	作曲の背景を理解したうえで、提示部を鑑賞する。		
◆作曲者の動機に対する意図と曲想をかかわらせて聴く	9, 作曲の背景や、動機に対する作曲者の言葉を知った上で、提示部を聴く。 10, 運命が扉とたたいているとしたとき、第1主題、第2主題から受け取れる作曲者の思いを想像する。	○「この動機は、ドアをたたく音をイメージして作曲したといいました。この動機について、作曲者は『このように運命は扉をたたく』という言葉を残しています。この曲は、作曲者が難聴に苦しんでいるときに書かれた曲なのです。」 ・提示部の終了までを聴かせる	知 〈ワークシート〉 思 〈ワークシート〉
評価	第1楽章全体を通して、作曲者が表現しようとしたことについて考え、動機にかかわらせた批評文を書く		
◆楽曲全体をきき、作曲者が表現したかったことについて考える	11, 第1楽章を通して聴き、この曲を通して作曲者が表現したかったことを考え、動機と関わらせながら批評文を書く。	・全体の構成(ソナタ形式)について簡単に説明をする。	知 〈ワークシート〉 思 〈ワークシート〉 態 〈観察〉 〈ワークシート〉